



hida

広報

ひだ

町木



第38号

肥田町
郷づくり委員会
H17.9.5発行



認知症(痴呆)啓発研修会の開催

―地域で私たちのできることを考えよう―

福祉部長 藤野眞理

去る7月9日、彦根市在宅介護支援センターいなえの職員で講師の中川可子先生をお招きして、認知症の原因・症状とその対応、「地域で私たちのできることを考える」をテーマにビデオ、お話、アンケート等により講義を受けました。認知症は高齢化が進む中、ますます増加する病気で今後は大きな社会問題となりつつあります。いつ、誰が、何処で発症するか分かりません。決して人事ではなく身近な問題となっています。

肥田町には幸いにして高齢者や独居家庭には大変ご理解のあるボランティアサークル「ひだまり」が活動されており、野良田町には肥田町も担当で行政とのパイプ役の民生児童委員の滝幸子さんがおられますので、大変心強くお互いの連携を大切に維持していきたいと思っています。

これからは家族や地域・行政が一体となって、できること(早期発見・早期対応・ケア等)から取り組んでいけたら今回の研修会も大変有意義に発展していけると思っています。

今後とも肥田町の皆さんの温かいご指導、ご協力のほどよろしく

特に重度の認知症にかかられた患者の家族のご苦労は心身共に極限状態で、言葉だけでは癒すことはできません。



お願い申し上げます。
夜間の研修会にも拘わらず、町民の皆様はじめ自治会役員、福祉部員、婦人会役員、ボランティアサークルの皆様方には最後まで熱心に受講していただき、ありがとうございます。

認知症の早期発見のポイント

その1 軽度の時点での精神的変化の発見

●物忘れ ●物事に集中できなくなりあきつぽくなった ●不安な様子があった ●何事にも関心を示さなくなった ●ひがみつぽくなった ●眠れなくなった ●わけのわからない独り言を言うようになった ●実際に無い物が見えたり聞こえたりすると訴えるようになった

その2 軽度の時点での生活習慣の変化

●行事に参加しなくなった ●外出しなくなった ●家庭内の協調性がなくなった ●他人や知人と出会うなくなった ●常軌を逸した行動をするようになった ●身だしなみがだらしなくなった ●家人に嫌みを言うようになった ●不潔が平気になった ●食事の量や回数が増減した ●他人との接触が少なくなった

これらの症状は認知症ではなく、抑うつ状態や神経症、過労による集中力の低下という可能性もありますが、しかし認知症の始まりである可能性もあり、本人ないし家族が「以前と何か違うな」と感じた時には、専門の医療機関の受診をして下さいとお勧めいただいています。

子ども会 座禅の集いと彦根かるた開き

町子どもたちにとって嬉しい夏休みが始まりました。最初の日子ども会の皆さんで町を美しくしようと町内のゴミ拾集の運動をされました。そして翌日の7月22日は朝のラジオ体操を終えてからは恒例となりました「こども座禅の集い」を崇徳寺の高瀬住職さんのご指導で行いました。始めに高瀬さんから、座禅の心得として「調身」「調息」「調心」について優しくお話があり、前回とは長い時間の座禅に入りました。一寸した静の時間づくりで、皆さんの新しい集中力の芽生えを期待しています。続いて初めての試みでしたが、30人の子どもさんと周りの保護者が3つの組に分かれて町の歴史の香り高い彦根かるた取りを催しました。大人の方で初めて

の試みの人もあり、共々に朝の元気のない勉強にもなりました。ご協力ありがとうございました。

「彦根かるた」 み 水攻めの歴史にのこる肥田城址
(解説) 応仁の乱以後同族の六角、京極両氏は東西に分かれて反目し合う。肥田城主高野瀬氏は六角氏に属していたが、京極氏に代って湖北の雄となった浅井氏に組する。六角氏が怒って遂に水攻めになる。落城寸前の5月28日、豪雨で土手が決壊し、浅井氏の援軍もあって六角氏は退却する。これを水攻めの初めという人もある。



第6回

和み会開催

ボランティアサークル ひだまり

肥田町ボランティアサークルでは、6月6日に鶴野自治会長、藤野眞理福祉部長の臨席もいただき、和み会を開きました。

まず、今年よりサークル代表に就任された松枝会長の「心の温まるお話―全国小学3年生の募集推薦の作文より」の朗読に始まり、座ったままで出来る健康体操で少し元気の交歓、昼食は女性委員みなさんの手づくりの季節料理を美味しく味わいました。

食後は、新しい企画の、女性委員の皆さんが猛練習された懐かしい農業の振興を祈った「お米を食べよう音頭」の総踊りの披露や、出雲地方の民俗名物の銭太鼓―ご存知の安来節の余興に演じられています、竹筒型の物の中に銭を入れ銭の触れ合う音の賑やかなリズムで盛り上げる余興―をこれまた女性委員全員で今日最人気の「きよしのずんどご節」に乗せて賑やか絢爛に演じていただき、会場の高齢の方々から盛んな拍手に包まれた楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

和み会の皆さんの益々のご健康とご発展を心から祈念申し上げます。



お米を食べよう音頭風景

第3回 歴史探訪

目賀田城跡と又十屋敷



7月12日、梅雨の谷間の日を選んで11名が参加し、私ども肥田町の歴史と結びつきのある「目賀田城跡」と「豊会館―又十屋敷」を訪ねました。いずれも私どもにとつて眼を開く新しい発見となりました。

目賀田城に就いては地元史談会の小川重喜さんから解説をいただき、戦国期、目賀田氏は、あの佐々木六角氏の筆頭の重臣として活躍、織田信長が安土城を当時の目賀田山、現在の安土山に建てたいと目賀田攝津之守貞政に懇請され、その代わりに貞政の領地でもあった公明寺野(今の目加田)に目賀田城が築かれました。環濠集落の形を残しており、もつと早く足利時代に土豪によって既に城館をなしていたとも伝えられています。

戦国時代、肥田の城主高野瀬秀隆は、六角氏と浅井氏の衝突下にあつて、逸早く浅井氏に加担し六角義賢に反旗を掲げたことで、六角氏による肥田城水攻めが始まるが、その折に目賀田氏は六角氏が建てた肥田城の周りの築堤の夫役計画に乗らなかつたという資料があります。

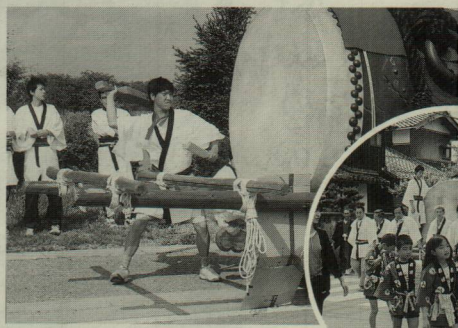


又十屋敷の見学は館長北川乙彦さんの懇切な案内をいただきました。ここ豊郷村枝村は1467年頃は、枝村が肥田郷と吉田郷との三叉路として「枝村関」が設けられていたところ。この地に生まれた藤野喜兵衛喜昌氏が若くして北海道に雄飛し、手広く漁場を開き「又十」の商号で北海の漁業に貢献、高田屋嘉兵衛とも提携して航海運輸業にも進出するなど近江商人としての活躍を残されました。しかし常に故郷の枝村を忘れず天保飢饉の折に地元莫大な窮民救済の善行を施しておられる。資料を見ると、肥田城主の家臣の藤野勘解由がこの地から移住の足跡も伺われ結びつきが知りたところ。またこの会館には数多くの美術品が所蔵され、幸田真音さん書のベストセラー「藍色のベンチャー」で、より陽を見た井伊直弼と湖東焼の世界も知ることが出来ます。皆さん蒸し暑い日々の中で感動の涼風をもらったひとときでした。

写真で見る 町の活動



ふるさと夏祭り



▲肥田町小宮祭



聖泉大学総合スポーツ施設が完成しました

聖泉大学では、スポーツで「まちづくり」に取り組もう、スポーツを楽しむことを通して大人から子どもへのタテのコミュニケーション、大人同士、子ども同士のヨコの結びつきを更に深め、地域の人々の明るく健やかなまちづくりにお役に立てたいの願いから、このほど彦根市肥田町の聖泉大学内に天然芝のグラウンドゴルフ場、人工芝のサッカー場、多目的グラウンド等と実に20,000平方メートルの大スポーツ施設を完成され一般の人々に開放となりました。7月16日には完成記念を祝う催しとして近隣の町から小学生130人余のサッカー大会や、老人会の方々192名による大グラウンドゴルフ大会が盛大に行われました。

実に素晴らしいスポーツ施設だけに充分にご満足いただけるものと思います。地元としても広く皆様のご利用をお待ちしています。

